

実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 広島県広島市中区基町9-42
管理機関(代表の機関)名 広島県教育委員会
代表者名 教育長 平川 理恵

1 管理機関

①管理機関(市区町村・都道府県)

ふりがな	しょうばらし
管理機関名	庄原市
代表者職名	市長
代表者職名	木山 耕三

②管理機関(産業界) ※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	しょうばらしょうこうかいぎしょ
管理機関名	庄原商工会議所
代表者職名	会頭
代表者氏名	佐々木 満

③管理機関(学校設置者)

ふりがな	ひろしまけんきょういくいいんかい
管理機関名	広島県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	平川 理恵

2 指定校名

学校名 広島県立庄原実業高等学校
学校長名 八幡 茂見

3 事業名

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
～ Think Globally, Act from Shobara ～

4 事業概要

社会の変化や次世代技術に柔軟に対応しつつ、地域資源を有機的に繋げることで地域と産業界、専門高校が一体となって、地域の未来創造に貢献できる人材を育成する。具体的には、指定校が庄原市、庄原商工会議所及び県立広島大学等と連携し、農林業が基幹産業である庄原市のアグリビジネスプレイヤー育成システムと、それを実装するための「庄原

ひとつづくりコンソーシアム（仮称）」を構築する。

同時に内外リソースを有効に活用した教育課程等を開発し、地域を学習フィールドとした「未来思考型PBL」を展開することで、生徒に主体性や課題発見・解決能力を身に付けさせ、ひいては地域に貢献し次世代に対応できるクリエイティブな職業人材を育む。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

ア 学校設定教科・科目を開設している

イ 教育課程の特例の活用している

6 事業の実施期間

契約日～令和4年3月31日

7 令和3年度の実施計画

①マイスター・ハイスクール運営委員会の開催

「庄原ひとつづくりコンソーシアム（仮称）」を立ち上げ、「第2期庄原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等に基づき、5～10年後の庄原地域における産業界の姿を描く。

- (1) 地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーに、必要な資質・能力とは何かについて協議し、指定校と地域社会が教育課程を介してその目標を共有する。
- (2) それに資する人材を育成するための実施計画としての「マイスター・ハイスクールビジョン」を策定する。
- (3) マイスター・ハイスクールCEOを選任する。
- (4) 産業実務家教員を選任する。
- (5) マイスター・ハイスクール事業推進委員会及び指定校の今年度の取組に対し、検証・評価及び指導・助言を行う。

②マイスター・ハイスクール事業推進委員会の開催

「マイスター・ハイスクールビジョン」を実現するための行動計画を作成する。

- (1) 教育課程（令和4年度）の刷新の方向性，学校設定教科・科目の在り方，学習プログラムの内容，外部リソースの活用方法等を検討する。
- (2) 実験・実習を中心に先進的な知識や技術の習得を促す授業の在り方を検討する。

③マイスター・ハイスクールCEOの活用

- (1) マイスター・ハイスクール事業推進委員会の委員長となり、「マイスター・ハイスクールビジョン」実行に係るマネジメント業務を司る。
- (2) アグリビジネスプレイヤー育成システム構築について検討する。
- (3) 地域の人的・物的資源の活用方法や，放課後等を活用した地域社会との連携方法を探るなど，指定校と地域社会との連携を促す。

④産業実務家教員の活用

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーに不可欠な資質・能力を育成するために、AI/IoT等を活用した授業を実施する。

- (1) 授業の実施に先立ち、「産業実務家教員をどの学年のどの授業にどの程度配置すれば、求める生徒像に到達するか。」という視点で、マイスター・ハイスクールCEO、産業実務家教員、指定校の教職員、管理機関で検討し、現行の教育課程における産業実務家教員の配置計画を作成する。
- (2) 産業実務家教員の所属フィールドでの実技指導や、スマート農業実践企業における実習体験、指定校の圃場でドローン等の先端機器を取り入れた公開デモンストラクションなど、産業実務家教員による多様な授業形態について検討し実施する。
- (3) 次年度の実施計画を作成する。

⑤「未来思考型PBL」を実践するための学習プログラムの開発

指定期間中に実施する全ての学習プログラムにおいては、企業や専門家の指導・助言を得ながら授業をデザインし、指導上の工夫や教授方法等について、多角的に検討し実施する。

- (1) 令和4年度以降、担当者がかかわっても同様の授業を実施できることを念頭に、予め関係者で協議し、「授業デザインシート」を作成する。
- (2) 学習プログラム実施に係る教材等を教職員間で蓄積・共有するための仕組みを構築する。
- (3) 令和3年度は、以下の学習プログラムⅠ～Ⅲの実施と評価を行う。
- (4) その他の学習プログラムⅣ～Ⅵ（「アグリビジネスアイデアソン」、「STEAM×PBL」、「アグリビジネスコンペティション」）の内容について検討する。

学習プログラムⅠ：キックオフミーティング

教職員・対象生徒が本事業で掲げるビジョンを共有し、自己の生き方と事業の目的を同期化させ、事業の取組を自分ごととすることをねらいとしたワークショップを教材化し実施する。

【対象】指定校の教職員，第1学年生徒

【実施回数】教師1回，生徒1回

学習プログラムⅡ：グローバルデザイン Thinking

生徒自身が、「5～10年後の庄原地域における未来像を描き、そのような未来社会を創造するためには、どのような資質・能力を身に付ける必要があるか」についてイメージさせ、今後の学びに興味・関心を抱かせることをねらいとする。地域の課題解決が世界的な課題の解決にも結びつく事に気付かせ、そこから自分自身について考えさせるようなワークショップを教材化して実施する。

【対象】第1学年生徒

【実施回数】1回

学習プログラムⅢ：フィールドリサーチⅠ，フィールドリサーチⅡ

プロジェクトの研究テーマを設定する際、地域の声に耳を傾け、地域の課題と自身のキャリアビジョンとを結び付けながら考える。その際、ICTを活用して情報を収集したり、リサーチ先の決定、アポイントメント、インタビューに至るまで、生徒主体で取り組ませるなど、教授方法を工夫する。

【対象】第1学年生徒，第2学年生徒

【実施回数】対象学年につき1回

学習プログラムⅣ：アグリビジネスアイデアソン

第2学年の生徒が設定しようとする研究テーマについて、外部人材と共にアイデアを出し合いながら、研究テーマの妥当性を多角的な視点で検討する。

【対象】第2学年生徒

【実施回数】1回

学習プログラムⅤ：STEAM×PBL

第3学年の生徒が取り組んでいる課題研究を、普通教科の教材として扱い、普通科の教員が担当教科の見方・考え方を通じて、その学問が、課題研究の中でどのような役割を果たしているかについて、体感させるような授業を展開する。その学習指導案を蓄積し、農業科と普通科の学びを往還させるSTEAM×PBLの在り方を検討する。

【対象】第3学年

【実施回数】数回（授業研究）

学習プログラムⅥ：アグリビジネスコンペティション

生徒のアイデアや取組が、地域の未来社会創造に役立ち、社会実装化に繋がる取組となることをねらいとし、大学や企業とのマッチングの場を設ける。生徒のアイデアを大学や企業に引き継いだり、共同研究に発展させたり、生徒の研究活動の発展性に期待して、大学や企業が研究のサポートを担うなど、課題研究と地域社会との接続を促す。

【対象】第3学年生徒

【実施回数】1回

⑥事業の評価

本事業で育みたい資質・能力を定め、以下の指標等を活用して取組の評価を行う。

- (1) 現段階では、学校が育成を目指す資質・能力を基軸とする。今後、各種会議等を通して見いだした、本事業で育成すべき資質・能力を踏まえて、評価方法を検討する。
- (2) 以下の指標に基づく数値目標を設定するため、現状値を把握する。また、各学習プログラム終了後の生徒の変容を見取るための評価の在り方についても検討し、定める。

定量的評価指標

資質・能力	アウトカム評価	アウトプット評価	その他
専門的な知識・技術	○アグリマイスタープラチナ取得者数	○シラバスの改訂 ○産業実務家教員の指導時間	○就農可能率 ○広島県立農業技術大学校への進学者数 ○農業関連学部への進学者数
発信力と行動力	○科目毎のマスターループリックで評価A以上の生徒の割合	○外部講師の講話時間 ○教科等横断的な授業の指導案の数	
粘り強く探究する力	○FFJ検定上級取得者数	○外部機関との協働研究数	

定性的評価指標

資質・能力	アウトカム評価	アウトプット評価	その他
専門的な知識・技術	○キャリアノートにおける資質・能力の肯定的変容が見られる生徒の記述内容等(割合)	○産業実務家教員の指導時間	○就農可能率 ○広島県立農業技術大学校への進学者数 ○農業関連学部への進学者数
発信力と行動力		○教科等横断的な授業の指導案の数	
粘り強く探究する力		○時間割外実習において管理実習以外の探究活動を実施した回数	

<添付資料>

- ・令和3年度教育課程表

8 事業実施体制

意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
富永 六郎	広島県教育委員会事務局学びの变革推進部・部長
加藤 武徳	庄原市企画部・部長
本平 正宏	庄原商工会議所・専務理事
大浜 清	広島県農林水産局・総括官（農水産振興）
金田 典子	広島県商工労働局イノベーション推進チーム・地域デジタル化推進担当課長
荻田 信二郎	公立大学法人県立広島大学生物資源科学部・学部長
向市 敏男	広島県立農業技術大学校・校長
中重 秋登	庄原市立庄原中学校・校長
和田 隆裕	庄原農業協同組合・代表理事常務
八幡 茂見	広島県立庄原実業高等学校・校長

事業実行機関の構成（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
調整中	調整中
仲 正人	しょうばら産学官連携推進機構・コーディネーター
谷口 浩一	株式会社 vegeta・代表取締役
竹志 幸洋	広島県教育委員会事務局学びの变革推進部高校教育指導課・課長
出原 寛之	広島県農林水産局農業技術課・課長
尾上 正幸	広島県商工労働局イノベーション推進チーム・地域産業デジタル化推進グループ主任
黒木 和彦	庄原市企画振興部農業振興課・課長
甲村 浩之	公立大学法人県立広島大学生物資源科学部・教授
川本 和彦	広島県立農業技術大学校・副校長兼教務課長
植田 圭	広島県立庄原実業高等学校・教頭
板垣 哲司	広島県立庄原実業高等学校・プロジェクトリーダー（事業研究開発主任）
藤岡 勇貴	広島県立庄原実業高等学校・プロジェクトサブリーダー（事業総務主任）

9 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（契約日～令和4年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営委員会				●			●				●	
事業推進委員会					●			●		●		
学習プログラム	→											
産業界との連携	→											
大学等との連携	→											
取組の評価				●			●				●	

（●：実施 ， →：教育課程に応じて実施）

10 知的財産権の帰属

※いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

（○） 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

（ ） 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

11 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・ 無

※有の場合、別添3に詳細を記載すること。

12 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者 ・ 免税事業者 （□で囲むこと）